

計 算 書 類

(第5期)

自 平成29年 1月 1日
至 平成29年12月31日

REVICキャピタル株式会社

貸借対照表

平成29年12月31日

REVICキャピタル株式会社

(単位：千円)

資産の部		負債の部	
科 目	金 額		金 額
(流動資産)	1,781,848	(流動負債)	292,544
現金及び預金	1,352,548	未払費用	220,799
営業投資有価証券	367,927	未払法人税等	7,798
前渡金	22,429	前受金	63,938
未収消費税等	23,868	預り金	8
その他の流動資産	15,074		
		負債合計	292,544
		純資産の部	
(固定資産)	1,000	(株主資本)	
有形固定資産	0	資本金	100,000
投資その他の資産	1,000	資本剰余金	2,855,000
長期前払費用	69	その他資本剰余金	2,855,000
差入保証金	931	利益剰余金	△ 1,330,545
		その他利益剰余金	△ 1,330,545
		繰越利益剰余金	△ 1,330,545
		自己株式	△ 134,150
		自己株式	△ 134,150
		純資産合計	1,490,304
資産合計	1,782,848	負債純資産合計	1,782,848

損益計算書

自 平成29年 1月 1日
至 平成29年12月31日

REVICキャピタル株式会社

(単位：千円)

科目	金額	
営業収益		466,312
営業費用		1,198,820
営業利益		△ 732,507
営業外収益		
雑収入	303	
営業外収益合計		303
経常利益		△ 732,204
特別損失		
減損損失	1,431	
特別損失合計		1,431
税引前当期純利益		△ 733,636
法人税等		7,798
当期純利益		△ 741,434

株主資本等変動計算書

自 平成29年 1月 1日
至 平成29年12月31日

REVICキャピタル株式会社

(単位：千円)

	株主資本							純資産 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		自己株式	株主資本合計	
		その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金 合計			
当期首残高	100,000	2,855,000	2,855,000	△ 589,111	△ 589,111	△ 84,150	2,281,738	2,281,738
当期変動額								
自己株式の取得						△ 50,000	△ 50,000	△ 50,000
当期純利益				△ 741,434	△ 741,434		△ 741,434	△ 741,434
当期変動額合計				△ 741,434	△ 741,434	△ 50,000	△ 791,434	△ 791,434
当期末残高	100,000	2,855,000	2,855,000	△ 1,330,545	△ 1,330,545	△ 134,150	1,490,304	1,490,304

(注) 金額は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

個別注記表

記載金額は表示単位未満の端数を切り捨てて表示しております。

1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

(1) 資産の評価基準及び評価方法

有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

時価のないもの……………移動平均法による原価法

ただし、投資事業有限責任組合への出資は、組合等の財産の持分相当額を営業

投資有価証券として計上し、組合等の営業により獲得した損益の持分相当額を

損益として計上する方法によっております。

(2) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産（リース資産を除く）……………定率法

ただし、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備については定額法

主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物（建物附属設備） 10年

工具器具及び備品 5～10年

なお、建物等については、株式会社地域経済活性化支援機構法（平成21年法律第63号）の特定経営管理期間に基づき償却を行っております。

(3) その他計算書類作成のための基本となる重要な事項

- ① 消費税等の会計処理……………消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっており、控除対象外消費税及び地方消費税は当事業年度の費用として処理しております。

2. 貸借対照表等に関する注記

(1) 有形固定資産の減価償却累計額 1,019千円

(2) 関係会社に対する金銭債務

未払費用 205,339千円

3. 損益計算書に関する注記

(1) 関係会社との取引高

関係会社に対する営業費用 648,608千円

(2) 減損損失

当社は、当事業年度において以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

場所	用途	種類	減損損失の金額
那覇事務所	事業用資産	建物	1,071千円
札幌事務所		工具器具及び備品	359千円
		合計	1,431千円

当社は、キャッシュ・フローを生み出す投資事業に係る事業用資産につき、全体で1つの資産グループとしております。

継続的な営業損失の計上により、減損の兆候が認められたことから、将来の回収可能性を検討した結果、帳簿価額を回収可能価額まで減額いたしました。

4. 株主資本等変動計算書に関する注記

発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首の株式数(株)	当事業年度増加株式数(株)	当事業年度減少株式数(株)	当事業年度末の株式数(株)
普通株式	2,955,000	-	-	2,955,000

自己株式の種類及び株式数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首の株式数(株)	当事業年度増加株式数(株)	当事業年度減少株式数(株)	当事業年度末の株式数(株)
普通株式	84,150	50,000	-	134,150

5. 税効果会計に関する注記

一時差異の発生の主な原因は繰越欠損金であります。なお、繰越欠損金等にかかる繰延税金資産に対しては、全額、評価性引当金を計上しております。

6. 金融商品に関する注記

(1) 金融商品の状況に関する事項

① 金融商品に対する取組方針

当社は株式会社地域経済活性化支援機構法に基づき、民間事業会社と共同の無限責任組合員として投資事業有限責任組合を管理運営しております。組合に対しては自己資本の範囲内で必要な額の出資を行っております。

一時的な余資運用は安全性の高い金融資産に限定しており、投機的な取引は行わない方針です。

② 金融商品の内容及びリスク並びにリスク管理体制

営業投資有価証券は、当社が無限責任組合員を務める投資事業有限責任組合の組合財産に対する持分相当額であり、組合の事業リスクに晒されております。当該リスクに関しては、投資事業有限責任組合及びその出融資先の状況を随時かつ定期的にモニタリングし、財務状況の悪化、事業計画の遅延等に対し、早期に対応を図ることとしております。また、当社が無限責任社員となる組合は組合員からの出資額の範囲内で事業を行い、借入は行わない方針です。

③ 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には市場価格に基づく価額のほか、市場価額が得られない場合には合理的に算定された価格が含まれております。

(2) 金融商品の時価等に関する事項

平成29年12月31日における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次の通りであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません。

(単位：千円)

	貸借対照表計上額 (*)	時価 (*)	差額
現金及び預金	1,352,548	1,352,548	-

(注1) 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

現金及び預金

これらは、短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

営業投資有価証券は、市場価格がなく、かつ、将来キャッシュ・フローを見積もることができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上記表には含

めておりません。

7. 関連当事者との取引に関する注記

親会社及び法人主要株主等

(単位：千円)

属性	会社等の名称	議決権等の 所有 (被所有) 割合	関連当事者との 関係	取引の内容	取引金額	科目	期末残高
親会社	(株)地域経済活性化支援機構	被所有 直接 100%	出資 出向者受入 経費立替他	出向者受入負担金等	530,407	未払費用	205,339
				設備等使用料	118,201		
				経費立替	486,347		

(注) 取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

8. 1株当たり情報に関する注記

(1) 1株当たり純資産額 528円32銭

(2) 1株当たり当期純利益 △260円36銭

(注) 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりです。

損益計算書上の当期純利益 (千円)	△741,434
普通株主に帰属しない金額 (千円)	-
普通株式に係る当期純利益 (千円)	△741,434
普通株式の期中平均株式数 (株)	2,955,000
普通株式の期中平均自己株式数 (株)	107,227